私たちは今日までの歩みに誇りをもって地域社会・利用者・職員の
しあわせを次の半世紀につないでいきます

SENZOKU vol.32

洗足

ヨハネによる福音書13章
「イエス弟子の足を洗う」

日本聖書協会発行『アートバイブル』より

13章 8節 ： ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。

カフェまつぼっくり

CONTENTS

1. 巻頭言 P.1

2. 創業50年への足跡① P.2

3. 特集「就労継続支援B型事業の現状と課題」Vol 1
▶就労継続支援B型事業所の作業と取組を紹介 P.3～6

4. 事業報告 P.7・P.8

5. 決算報告 P.9・P.10

6. 第5期中期計画について P.11・P.12

7. 創業48周年記念式典 講話 P.13

8. 新施設長紹介 P.14

9. 牧師メッセージ P.15

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
〒654-0142 兵庫県神戸市須磨区友が丘1-1 TEL:078-792-7555 FAX:078-795-4511
https://www.kobeseirei.or.jp

巻頭言 SENZOKU

備えあっても憂いあり！?

理事長　水野　雄二

今年の９月１日は関東大震災が起こってから丁度 100 年の「その日」です。９月１日の「防災の日」はそれを記念して、国民が災害に備えて「憂い」のないような対策を整えるために定められた日です。1995 年の阪神・淡路大震災の時、「昔、関東大震災に遭って関西に逃れてきたら関西でも震災に遭ってしもうたわ。」と嘆いておられたご老人がおられたのを思い出します。神のみぞ知る大自然の営みに対して、人間が完全に備えることは不可能ですが、少しでも悲しくつらい思いを減らすために可能な備えをしたいものです。

しかし、近年の「メガ」が付く地震、台風、集中豪雨など、大規模な自然災害に対して、「想定外」が普通になった時代に十分な「備え」がどこまでできるのか大きな疑問です。この秋もメガ台風が襲来しなければ良いが、と願うばかりです。

今から 20 年程前に梅雨末期の集中豪雨で福井市の足羽川が氾濫し、大規模な水害に見舞われたことがありました。その光景をテレビで見ていて、居ても立ってもおられず、ボランティアに出かけたことがありました。梅雨明けの炎天下、私は被災されたお家のヘドロを土嚢に詰める泥かき作業をたった１時間ほどしただけで熱中症となり、被災者の方に介抱されるという情けないボランティアとなったのです。でも後日、「来てくださったので片付けの元気が出ました。そのお礼に」と地元のお菓子を送ってくださいました。私としてはトホホな体験ながら、少しでも役に立った喜びが溢れました。

「他者のために存在する人、他者と分かち合い、本当に他者の役に立った人は、自分自身の人生のために新しい勇気を得、またその深い意味を見出す。」これは元ドイツ大統領のヴァイツゼッカー氏の言葉です。大自然の猛威に十分に備えることは難しいですが、人と人が助け合い、共生を大切にする常日頃からの心構えと行いが、せめてもの「備え」と言えるのではないかと思うのです。

神戸聖隷福祉事業団は 2025 年に創業 50 周年を迎えます。本誌では 6 回にわたってこれまでの道程を振り返りながら、今後の事業に向けて気持ちを新たにしたいと思います。

創業 50 年への足跡 1

（創業に至る道　1966 ～ 1975 年）

西神戸教会

1966 年、神戸市垂水区星陵台にある日本キリスト教団西神戸教会（島田信一牧師）にアメリカ人、ノーマン・パースンズ宣教師が赴任しました。西神戸教会は当時、開設 14 年目、小さいながらも若い教会で、様々な職業背景を持つ活動的な人たちが集まっていました。パースンズ宣教師は「社会に奉仕するクリスチャン」を説き、「弱い人に手を差し伸べる隣人愛」を語りかけました。祈りを続ける中、1971 年に信徒の一泊研修会で、社会福祉の重要性を強く認識し、キリスト教福祉の先輩方に学ぼうという動きになりました。そして、それは浜松の聖隷福祉事業団を訪ね、学ぶ機会へと実現します。聖隷の長谷川保理事長は聖書にある「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」と、熱心に語りかけたのです。

島田牧師とパースンズ宣教師

この情熱溢れる言葉に刺激を受けた信徒有志は、教会の承認のもと、神戸市との交渉を始め、老人福祉の事業マスタープラン作成へと移っていきます。しかし、神戸市長との面談では、社会福祉事業を行うには「土地の自己所有」「法人格」が必須であることを知らされ、最初の挫折を味わうことになりました。

信徒たちはそれでも土地の手当てのために資金計画を立てると共に、「恵生園設立準備委員会」を設立して組織体制も整え、建設のための土地情報の収集を進めていきました。

ついに、1972 年、和田山町（現兵庫県朝来市和田山町）が計画する「老人福祉村構想」に関連した土地譲渡に関する有力情報が届きます。その後、紆余曲折を経て、和田山町に聖隷福祉事業団の傘下で施設建設と事業開始が準備されることになりました。そして、1974 年に正式に恵生園の建設場所が確定し、代金の支払いも完了し、建設へと進むのです。

聖隷・長谷川保理事長

ところがここで大きな方向転換が。但馬地区では別の特別養護老人ホームの計画があるため、身体障害者施設が必要との兵庫県の意向を受けて事業変更をすることになり、以後、障害者福祉が神戸聖隷の中核事業となりました。

垂水駅前での街頭募金

1975 年 6 月 22 日、小雨の中、神戸聖隷福祉事業団の第 1 号施設「恵生園」は身体障害者施設として建設の起工式が行われ、この日を神戸聖隷創業の日と定めています。最初の職員として、稲松斉、瓦田信之、佐藤大和、越智靖の 4 家族と 3 名の単身者が神戸から和田山へ移住。1976 年 6 月 1 日に、待ちに待った恵生園が開所するのです。

歴史を語る①　瓦田信之さん（元職員、恵生園開所時に神戸から和田山に移住したお 1 人です。）

瓦田信之さん

私は 1939 年生まれ。戦後に大阪に出て学校を卒業後、大阪で仕事をしていましたが、27 歳の時、神戸市垂水区の上高丸団地が当たって住むようになりました。近くに西神戸教会があって、ふらっと寄ったら、島田牧師、パースンズ先生もこれからは福祉の時代だと説教をされていました。教会で温かい歓迎の中を過ごす内に、だんだん福祉モードに変わっていき、街頭募金をしようという話になりました。水曜日の祈祷会は熱を帯びてきて、垂水駅前のダイエーや明石で募金を始めました。私は社会福祉の通信教育も勉強して、皆さんの講師役にもなりました。和田山に施設を開設する時、献身しようと妻と話をしていたのですが、丁度、妻が妊娠。でも、葛藤なく、行くことにしました。逃げられないと思って、行ってしまいました。和田山ではつらいことはなかったですね。地域で陶芸をしたり、碁楽庵と称してよく酒を呑んだりしました。楽しい日々でした。西神戸教会にふらっと行った時、丁度、教会の皆さんが浜松の福祉施設を見学された直後だったことが、神様の導きだったような気がします。

特集 01

就労継続支援B型事業の現状と課題

就労継続支援 B 型事業所の作業と取組を紹介

特別支援学校を卒業した方が、進路希望される障害福祉サービス事業では「就労継続支援 B 型事業」が多いと進路担当の先生方からお聞きしたことがあります。

最近では卒業と同時に就職へ特化した学校もあり、福祉サービスを利用しないまま就職される方が増加しています。一方、就労継続支援 B 型事業には支援者がいる安心感と、「働く」という自身の社会参加を実現させる満足感が両立できるメリットがありその意義は大きいと感じます。

しかし「就労継続支援 A 型事業」（最低賃金で事業所と雇用契約を締結する）と異なり「雇用」ではないので「最低賃金」の対象にはならず、あくまでも「賃金」＝「労働の対価」ではなく「工賃」という扱いになっています。多くの「就労継続支援 B 型事業」の中でご利用者にお支払いできる工賃には大きな格差があるのが現状です。

2021 年度兵庫県の就労継続支援 B 型事業所平均工賃月額は 14,354 円です。

では当法人の就労継続支援 B 型事業の工賃の実績はどうでしょう。

【2021 年度事業報告より抜粋】

事業所名	月配分額（平均）
和生園	15,708 円
せいれいやさかだい	5,638 円
神戸友生園	10,681 円
神戸光生園	14,004 円
デイセンターひょうご	4,211 円
ワークセンターわかまつ	10,493 円

兵庫県の平均工賃を上回っている事業所もありますが、多くは下回っており、またその額も安定的ではありません。本来は障害年金と工賃で日常生活が成り立つような工賃額を支給できることがひとつの目標といえるでしょう。そこに至らない要因にはどのようなことがあるのでしょう。

また「就労継続支援 B 型事業」のご利用者にとって「働く」とはどのような意味を持つのでしょう。ご自身が「やりたい仕事」「能力を発揮できる仕事」を事業所は提供できているでしょうか。

今回法人内の就労継続支援 B 型事業がどのような作業（仕事）を提供しているか、また様々な障害がある方への支援についてもご紹介します。更に、法人全体で工賃の底上げを図ることができないか、考えていくべきでしょう。次号はそれを踏まえての今後の課題や取り組みについて探っていきます。

広報委員会委員長　吉本ひろみ

和生園

定員 40 名　兵庫県朝来市和田山町秋葉台 1-72

和生園は 1982 年の開設当初よりゴルフバッグの縫製・生産作業を行ってきましたが、海外へ生産拠点が移行したため、2005 年からランドセルのパーツ加工作業を約 15 年に渡りご利用者と一緒に取り組んできました。製品の縫製や複雑な組み立て作業を通じて腕が磨かれたご利用者はまさに職人級で、そのような方が現在も多数在籍される就労支援事業所です。

現在では海上生け簀（いけす）等で使用されるフロートカバーの作製、南但広域事務組合から受託している可燃ごみ袋の生産をメインとして複数の作業をおこない、2014 年に開設した第 2 和生園では和田山地域における「農福連携」の先駆けとして小菊の栽培・出荷をスタートさせました。受託事業や収入を拡大させていく事と同時に、ご利用者に「仕事」ができる力を着実に身に付けていただけるよう日々支援をおこなっています。

ごみ袋生産

フロートカバー縫製

小菊栽培

ワークセンターわかまつ

定員 40 名　神戸市長田区若松町 5-5-1

ワークセンターわかまつにはベーカリー・パッケージ班、タオル加工班、受注班、カフェ班の４つの班があります。その中から今回は、長田区大正筋商店街にあるカフェ「まつぼっくり」で活動しているカフェ班を紹介いたします。ご利用者は掃除、接客、販売、洗い物等、レジ以外の役割を担っています。清潔を保つことや接客時の言葉使い、グラスやカップの汚れを残さないように洗うなど、飲食店として求められる部分もありますが、ご利用者は楽しく働いておられます。それぞれの目標に向かって頑張る姿はとても活き活きとされ、忙しい中にもやりがいを感じておられるようです。一番難しいのはお客様との会話のやり取りです。思いがけない質問にあたふたしながらも、少しずつ上手にやり取りができるようになっています。地域とのつながりを大切にしながらこれからも頑張っていきます。

パン販売

テーブル後片付け

洗い物作業

神戸友生園

定員 40 名　神戸市須磨区友が丘 1-1

神戸友生園は現在、約 10 社と取引をしており、軽作業を中心とした様々な作業を受注しています。工業製品では重機用スイッチの組立作業や絶縁チューブの加工作業。生活雑貨などでは、商材加工から商品化までの作業を受託しています。

また、作業場内にはお茶のティーバッグを作る自動包装機を設置し、取引先が販売する種々のティーバッグの製造から袋詰めまで、商品化の一連の工程をお任せいただいています。

当施設は次年度の開設 40 周年に向け、今までと変わらず『納期と品質をしっかり守る』ことで多くの取引先の信頼に応えられるよう、ご利用者と職員で今後も努力を続けます。

お茶のティーバッグを指定の数量に取り分ける工程です。

ティーバッグを袋詰めしたあと、専用の機械にて脱気とシールを同時に行う工程です。

作業風景です。いくつもの作業が同時進行しています。

神戸光生園

定員 33 名　神戸市垂水区南多聞台 8-23-15

神戸光生園の就労継続支援 B 型事業では 29 名の方が利用をしています。

作業は園内作業と園外作業に分かれています。園内作業は主に箱折り・緩衝材の袋詰め・チラシ封入・園内清掃等です。園外作業は舞子公園清掃・大学構内の除草・マンション清掃・近隣の公園清掃等です。

当事業所では、できるだけ得意な分野で能力を発揮してもらえるように作業の割り振りをしています。また、挑戦したい気持ちも大切に支援をしています。

緩衝材の作業を紹介します。緩衝材作業の特徴はシーラー（袋をヒーターの熱で溶着する機械）があることです。袋の端を揃えることが得意な方はきれいにシーラーを仕上げることができます。シーラー作業に挑戦したいと目標を設定する方もいます。シーラーができるご利用者の作業を目で見てイメージをつかむところから始まります。イメージができたら目標に向かって実践開始です。

緩衝材のシーラー作業の工程を見てイメージづくりをしています。

緩衝材の材料を小袋に詰めます。

小袋に詰めた緩衝材を大袋に 50 個詰めます。

せいれいやさかだい

定員 15 名　神戸市須磨区弥栄台 3-3-7

せいれいやさかだいは、林タオル事業所・シミズ事業所・友が丘事業所からなる多機能型事業所です。今回紹介する林タオル事業所は定員 15 名。企業からの受託作業（タオルの点検・折り・袋詰めなど）を中心におこなっています。

コロナ禍で、受託作業が急激に減少しました。ご利用者の皆さんへの作業提供が困難になるといった経験をきっかけに、2021 年から企業外での受託作業の開拓をおこなってきました。

現在、神戸市のバスターミナル・地域のクリーンステーション委託清掃作業や他企業からの作業依頼に 3 事業所が連携し対応することで作業量の充足を図っています。また、季節限定ですが玉ねぎ農家の収穫作業、じゃがいも・さつま芋の自主生産にも取り組んでいます。これからもご利用者の皆さんに、やりがいと生きがいの提供を続けていきます。

タオル関連作業

クリーンステーション清掃

玉ねぎ収穫

多機能型障がい者デイセンターひょうご

定員 15 名　神戸市兵庫区駅南通 5-1-1

私たちの事業所は JR 兵庫駅南側という地域の皆さんがアクセスしやすい場所に位置しています。当事業所の特色は、ご利用者のワークスタイルを尊重し、生活リズムや健康状態に合わせて毎日利用～週 1 日、午前半日・午後半日だけなど、「ご利用者が望む働き方」に向けて、職員と相談しながら 1 週間のスケジュールを決めることができます。

お一人おひとりの働きたいという想いを大切にし、作業プログラムを通じて自分の持っている力を発揮できるよう日々の仕事と生活をサポートしています。

作業内容は、箸検品・袋詰め、ポストカード・カレンダーの袋詰め、アルミ缶リサイクル、ノベルティーグッズ詰め合わせなど、受託作業が中心です。

カレンダー袋詰め作業

箸検品・袋詰め作業

ポストカード袋詰め作業

2022年度

事業報告

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。」（ローマの信徒への手紙 5: 3～ 4）

社会福祉法人　神戸聖隷福祉事業団
理事長　水野雄二

1．はじめに

コロナ禍第６波が続く中で、2022 年度はスタートしました。神戸聖隷は、前年度に体験し教訓を得たコロナ禍での施設運営を活かして対応を進めてきました。職員の懸命な感染防止対策やご利用者支援によって、比較的スムースな施設運営を実施することができました。その間、毎週継続された「新型コロナ感染症対策本部」からの情報発信が大いに貢献しました。また、緊急事態に備える重要性を更に意識し、地域貢献推進部の指導による事業継続計画（BCP）の精査が進められ、各施設においても、近く起こる可能性のある大規模災害にも備える準備を整えることができました。

2022 年度は第４期中期計画の最終年度でした。長く続くコロナ禍は業務のノウハウも変化を強いることになりましたが、幸いにもこれを契機に ICT 活用の業務や支援活動などデジタル活用が進みました。この傾向は業務の効率化や省力化をもたらし、ひいては生産性の向上にも繋がることを願います。

厳しさが続く人材確保と養成の課題にも積極的に取り組み、依然として人材確保は厳しさが続いています。また、多様な人材の働きが強められるように、女性活躍の方策や外国人働き手へのアプローチ、次世代を担う人材養成に挑戦し、その中で、但馬地区においてネパールから４名の働き手を得ることができました。喫緊の課題である次世代経営層育成も「経営諮問委員会」の定期的開催などを通して進めることができました。

2022 年度は、多くの人々が多様な恐怖や不安を持ち続け、苦難、忍耐の中におられました。しかし、私たちは、苦難や忍耐が「練達」を生むことを知っています。私たちはより良い「練達」の業を求め、その「練達」が希望を生むことも知っています。神戸聖隷もまた、苦難、忍耐の時こそ、理念に立ち返り、希望ある時を過ごしたいと願い歩んだ一年でありました。

４中計に基づく推進部事業報告

理念理解定着部

中期事業目標①

創業 50 年に向けて、神戸聖隷ミッションの深く広い浸透をめざします

2022 年度も、理念理解定着部会を推進役として、法人の基本理念の浸透と定着を目標に事業を進めました。今年度もキリスト教に基づく基本理念について、法人紹介 DVD の日本語版、英語版の作成と配信を実施。また、マスコットキャラクター活用のトートバックを作成し、職員に配布することで、理念を共有する職員の一体感醸成に寄与しました。また、職員に向けては理念の神髄に触れる機会としての研修の場を設定し、施設での理念研修、キリスト教福祉基礎研修の実施を進めることができました。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるように、継続して職員報を発刊し、第 11 号を数えました。特に本年は職員の多様な働きを紹介し共有することができました。

理念理解定着部会は第４期中期計画をもって終結しますが、今後も法人全体として理念浸透に向けての多様なアプローチを続けていきます。　（水野雄二）

職員育成推進部

中期事業目標②

福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

今年度は新型コロナウイルスに対する基本的な感染防止対策が定着してきていることに加え、検査キットを使った感染状況の把握が定期的に実施されていることなどもあって、ほとんどの研修について対面での実施を再開することができました。同じ空間を共有することから生まれる一体感を感じる機会となりました。特に３年ぶりにコープこうべ協同学苑の研修ホールで実施した総合職員研修では発表する職員一人ひとりから多くの熱量が伝わり、改めて当法人職員の持つポテンシャルを感じることができました。

福祉人材の確保については、学校訪問を 44 校（述べ 65 回）実施しました。施設からの協力のもとその学校の出身職員も同行し、学校が主催する学内説明会で学生に福祉の仕事についてのやりがい等について説明することができました。

新規採用試験の応募者は昨年度の 15 名に対し９名と減少し、内定承諾者についても達成には至りませんでしたが、内定応諾率では昨年度の 45%（11 名中５名）に対して 75%（８名中６名）と昨年度を上回る結果となり、当法人を上位に志望する人材を得ることができたと思います。　（有川洋司）

ＱＯＬ推進部

中期事業目標③

ひとり一人の居場所をていねいに作り、安心安全な生活を目指します

第４期中期計画におきましては、第三者評価結果に対する達成目標の作成、満足度調査集計結果（接遇、支援内容、環境、食事、情報提供）の各施設ホームページでの掲載、標準となるマニュアルの更新、虐待防止チェックリスト集計結果を受けての対策シートの作成、同じく虐待・不適切ケア評価表を用いた事例検討会の実施と判定表に対するコメント作成、法人内で募集した接遇アップの標語を用いたポスターでの接遇アップキャンペーンと接遇ハンドブック唱和依頼の実施、ハラスメントの観点からご利用者、家族との困難事例の学習会実施、ヒヤリハット、事故報告の提出を促す目的でのヒヤリハット通信の発信をおこなっています。

客観的にサービスの質を見つめ、また職員の気づきを起こさせたのではないかと思います。満足度や虐待防止への取り組みなどはマイナスからのスタートでしたが、職員からのサービス提供を通してご利用者の皆さんがやりがい、楽しさを感じ、神戸聖隷があって良かった、利用して良かったと思っていただいているのではないかと思います。　（種谷啓太）

経営強化推進部

中期事業目標④

社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

各事業の利用延人数・給付費収入の年度目標値達成に向けて差異分析データを提供し、理事による担当施設のフォローアップに努めましたが、新型コロナウイルスへの感染、感染不安による利用控え、基幹施設の長引く利用定員割れの影響により、目標値を大きく下回りました。第５期中期計画の重点実施項目に掲げる「神戸聖隷品質のサービス向上」を図り、コロナ減収からの脱却（安定的な事業収入の確保）に向け鋭意努力いたします。

ロボット等先進福祉機器整備、AI・ICT 化の推進においては、眠りスキャンの追加、インカムの導入、記録システムのクライアント追加等を行いました。ご利用者の安心・安全な生活の確保は勿論、職員の業務負担も幾分か軽減され、ご利用者個々に応じた支援・介護の提供に繋げることが出来ています。

業務省力化については昨年度導入したワークフローシステムを有効活用するため、施設内ワークフローを構築することで施設内決裁を可能とし、また本部への各種届出書類にも運用を拡大しました。これにより、申請から最終決裁までの時間短縮、ペーパーレス化を実現しました。

法人内の主要会議は Teams 又は Zoom と OneNote を使った web 会議となり、結果、会議資料や記録作成の効率化はもとより、会議開催に要する時間短縮にも繋がっています。　（西山充）

地域貢献推進部

中期事業目標⑤

誰もがつながり支え合う地域の実現をともに創る資源となる

BCP の策定については、法人内施設共通の「ひな形」を作成して全ての施設での準備を呼びかけて 2024 年度の完全義務化へ向けた準備を行いました。すべての施設の年度内完成には至っていませんが、次年度の中で更新と完成に取り組み、法人としてまとめて有事に活かせるようにします。

地域課題への取り組みとして「課題を抱える妊産婦等の就労支援」の受け入れ施設として県の要請に応えました。今後は「フードドライブ」や「ヤングケアラー」「DWAT」等の課題に取り組み、各拠点の活動に積極的に参加しリードしていきます。

地域活動拠点の一つを目指す「Tunagari」は継続営業して地域の方にその存在を知ってもらうことが出来ました。各地区の行事再開やボランティア受入れについてもこれからの取り組みに委ねていきます。

広報の充実と活用については各部署の協力を得てタイムリーなページ更新を行いました。リニューアルを含めて、地域のニーズにより合ったページ作りと情報発信に取り組みます。　（加藤成久）

人事・労務・危機管理推進部

中期事業目標⑥

持続的発展を担う組織基盤の確立を目指します

第４期中期計画の最終年、時宜にかなった取組みが進みました。「モチベーション分野」の、職員の給与と人事考課、多様な働き方の制度の面では、国による施策でベースアップ等支援加算が得られることを活用して、実に四半世紀ぶりのベースアップを 2023 年４月から施行しました。また多様な働き方の要請に合わせて、地区間異動義務をなくしたエリア正規職員の仕組みを構築しました。適切な人事考課制度運用のために普段の改良が欠かせませんが、本年度、評価作業のシステム化により、効率的に評価を実施する仕組みを導入しました。

「ワークライフバランス分野」も、残業の長時間化が続いている一部の職員へ、面談を通して業務改善を一緒に考えるというアプローチをし、良い結果が出始めました。職員意識調査でも概ね良い結果でしたが、中には一部分気になる課題があり、地道に向き合うことで、まだまだ良くなるのではないかと考えています。

「経営者育成分野」では強い経営者が経営を引っ張る力が欠かせませんので、管理者や経営者に求められる職能を身に着けてもらうべく、理事・施設長への気持ちに訴えてきました。またかねてから指摘されてきた経営層の若返りのための端緒を開き、2023 年度は新たな法人像が生まれます。

「コンプライアンス分野」は、国が求める内部体制の在り方を、監事様と共に見直す方針を立てていましたが、監事様のご意向を受けて、理事による期中内部監査で、施設・事業所の実態を自主検査しました。３～４中計を通じてご理解をいただきありがとうございました。　（吉田和夫）

2022年度

決算報告

2022年度決算について

法人本部　事務長　**小紫義也**

第４期中期計画（2020 年度～ 2022 年度）の最終年度にあたる 2022 年度は、当方事業所においても新型コロナウイルス第７波、第８波の影響を受けました。2022 年度において法人内事業所での新型コロナウイルス陽性者数はご利用者が 324 名、職員が 218 名でした。また濃厚接触者はご利用者が 130 名、職員が 134 名でした。事業所７箇所で休園に追い込まれるなど、延べ利用人数は前年度を大きく下回ることとなりましたが、サービス事業活動収益計は処遇改善ベースアップ等支援加算創設等により 37.6 億円（前年比 24,000 千円増）となりました。一方で、水道光熱費や物価高騰の影響による費用増もあり、最終的に当期活動増減差額は▲ 1,176 千円となり、３期連続赤字という厳しい結果となりました。

整備面においては、大規模なものはありませんでしたが、地域密着型介護老人福祉施設さくらの苑においてインカムシステム整備を実施しました。また記録システム導入事業所に対して継続的な活用推進を行うなど ICT 化に向けた取組みを継続実施しました。

法人を取り巻く環境について厳しい部分はありますが、今後もご利用者・ご家族・そして地域に必要とされるサービスを提供できるよう努めてまいります。

貸借対照表 [2023 年 3 月 31 日現在]

（単位：千円）

資産の部	当年度末	負債の部	当年度末
流動資産	1,924,749	流動負債	276,084
現金預金	1,301,367	短期運営資金借入金	0
事業未収金	597,947	事業未払金	90,828
		１年以内返済予定設備資金借入金	26,474
		１年以内返済予定長期運営資金借入金	10,000
		賞与引当金	119,416
固定資産	5,883,070	固定負債	805,452
基本財産	2,915,209	設備資金借入金	221,612
土地	263,445	長期運営資金借入金	35,000
建物	2,651,763	退職給付引当金	543,090
その他の固定資産	2,967,861	負債の部合計	1,081,536
土地	113,167	**純資産の部**	
建物	154,705	基本金	946,256
退職給付引当資産	328,231	国庫補助金等特別積立金	858,522
積立資産	2,090,948	その他の積立金	2,090,948
		次期繰越活動増減差額	2,830,555
		（うち当期活動増減差額）	－ 1,176
		純資産の部合計	6,726,282
資産の部合計	7,807,819	負債及び純資産の部合計	7,807,819

資金収支計算書 [(自) 2022 年 4 月 1 日　(至) 2023 年 3 月 31 日]

(単位：千円)

勘定科目	当初予算 (A)	決算 (B)
事業活動収入計 (1)	3,795,898	3,798,683
事業活動支出計 (2)	3,624,808	3,593,284
事業活動資金収支差額 (3) = (1) − (2)	171,090	205,398
施設整備等収入計 (4)	2,632	2,376
施設整備等支出計 (5)	73,270	72,591
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) − (5)	− 70,638	− 70,215
その他の活動収入計 (7)	121,692	122,849
その他の活動支出計 (8)	219,757	215,164
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) − (8)	− 98,065	− 92,315
予備費支出 (10)	0	0
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) − (10)	2,386	42,867
前期末支払資金残高 (12)	1,737,523	1,759,815
当期末支払資金残高 (11) + (12)	1,739,910	1,802,682

事業活動計算書 [(自) 2022 年 4 月 1 日　(至) 2023 年 3 月 31 日]

(単位：千円)

科　目	当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) − (B)
サービス活動収益 (1)	3,760,969	3,736,350	24,618
経常経費寄附金収益	19,031	18,168	863
サービス活動費用 (2)	3,786,323	3,764,934	21,388
人件費	2,713,458	2,709,708	3,749
事業費	429,394	396,813	32,580
事務費	399,554	422,516	− 22,962
業務委託費 (保守料除く)	192,833	189,258	3,575
減価償却費	265,700	262,445	3,255
国庫補助金等特別積立金取崩額	− 74,187	− 74,189	1
サービス活動増減差額 (3) = (1) − (2)	− 25,353	− 28,583	3,230
サービス活動外収益 (4)	48,628	35,036	13,592
サービス活動外費用 (5)	24,676	13,083	11,593
サービス活動外増減差額 (6) = (4) − (5)	23,951	21,952	1,998
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	− 1,401	− 6,630	5,229
特別収益計 (8)	2,676	27,782	− 25,106
特別費用計 (9)	2,451	24,287	− 21,836
特別増減差額 (10) = (8) − (9)	224	3,494	− 3,269
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	− 1,176	− 3,136	1,959
次期繰越活動増減差額	2,830,555	2,912,752	− 82,197

参考資料	2022 年度	2021 年度
流動比率	697.2%	500.4%
純資産比率	86.1%	86.1%
人件費率	72.8%	74.2%
委託比率	5.2%	5.2%
人件費率 + 委託比率	78.0%	79.4%
固定長期適合率	78.1%	79.4%
経常活動収支差額率	− 0.0%	− 2.7%
サービス活動収益対借入金比率	3.4%	5.5%
労働分配率	95.5%	95.6%

参考資料	2022 年度	2021 年度
サービス活動増減差額率	− 0.67%	− 0.77%
経常増減差額率	− 0.04%	− 0.18%
借入金償還余裕率	18.32%	47.95%
債務償還年数	1.43 年	1.72 年
現預金回転期間 (月)	4.15 月	4.17 月
事業活動資金収支差額率	5.41%	5.10%
当期活動増減差額	− 1,176 千円	− 3,136 千円
流動比率	697.16%	645.02%
固定長期適合率	78.11%	78.92%

第５期（2023 年度～ 2025 年度）中期計画について

法人本部 常務理事　**村 山 盛 光**

2025 年度に神戸聖隷福祉事業団は創業 50 周年を迎えます。**「私たちは　今日までの歩みに誇りをもって　地域社会・利用者・職員のしあわせを次の半世紀につないでいきます」**との統一ビジョンの実現に向け、第５期中期計画を策定しました。第５中計の基本的な考え方を「中期計画の中心は施設計画である」とし、施設運営の充実を第一のテーマとしました。また、常任理事をグループサポーターとして応援体制を整え、施設それぞれの中期計画が力強く推進できるようにしました。また、第３期、第４期で中心的な役割を果たした６つの推進部を発展的に解消し、新たに５つの委員会（「経営諮問委員会」「QOL 委員会」「財務委員会」「人事委員会」「広報委員会」）を組織し法人全体の中期計画を推進させていきます。

１. 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	目指すべき成果
1. 経営組織の強化	①理事新体制に移行	▶外部理事２名招聘
2. 組織力の向上	①常任理事の役割強化	▶月一回の常任理事会定期的相互確認
	②施設運営グループサポーター（GS）の設置	▶月一回の担当施設訪問
	③新たな委員会組織の設置	▶５委員会の設置
3. 職場（施設）の活性化	①管理職のワークライフバランスの向上	▶管理職の超過勤務時間数 2022 年度比 30%減
	②昇進昇格意欲の醸成	▶昇任・昇格規程の改定
	③臨時職員休日数の検討	▶準職員就業規則の改定
	④各事業所における適正な役職者数の配置	▶総務課長１名増
	⑤業務の標準化	▶マニュアル策定
4. 人材育成・確保・定着	①採用戦略による採用活動の実行	▶法人が求める人材の確保
	②研修による人材育成の強化	▶法人経営の基盤を支えるたくましい人材の育成
	③女性管理職の育成	▶女性課長職割合 22%
	④子育て・介護世代応援プランの策定	▶プランの策定
	⑤早期（入職後３年以内）離職防止のための対策実施	▶定着率を高めるとともに職員の現場力を向上

２. 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	目指すべき成果
5. 基幹施設の老朽化対策	①神戸愛生園の建替え	▶入所者にとっての快適な生活空間の提供 ▶ムダのない業務遂行構造 ▶新たなサービス（事業）の組入
	②付加価値のある施設改修計画の策定	▶改修による新たなサービスの創設 ▶生産性の向上
6. 事業の再編	①指定管理事業運営の見直し	▶社会ニーズの実情とのバランスのとれた事業運営
	②新たなグループホーム（GH）の開設とセンター化の実現（神戸地区）	▶新たなグループホーム（GH）の開設 ▶センター体制による運営
7. 事業の確実な継続	① BCP に基づく協力活動の展開	▶災害時の法人内協力体制組立

3. 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	目指すべき成果
8. 神戸聖隷品質のサービスの向上	①一人ひとりに最適な支援の提供	▶施設内でサービスの強み、向上に向け取り組む体制整備
9. 一人も残さない支援	②法人内多種多様な分野が集結し、地域住民の派生的な支援要請に応じる	▶各地域会議等で残された地域課題へ取り組む
	③課題を抱える地域住民の自立と社会参加支援受入れ	▶法人内連携受入体制整備と受入れの実施（妊産婦・引きこもり・80-50・ヤングケアラー・不登校・触法・生活保護受給者等）

4. 財務の視点

重点実施項目	実行計画	目指すべき成果
10. コロナ減収からの脱却（安定的な事業収入の確保）	①各施設の収支状況の分析と運営方針の検証	▶経常増減差額率がマイナスの施設を無くし、平均４％を確保
	②適正な積立金の確保	▶予算計上した積立額を達成
11. 職員処遇の更なる充実	①管理職時間外手当の対応	▶課長への時間外手当の支給と施設長役職手当の見直し
	②リーダー手当の検討	▶インセンティブとなりうる手当の支給
12. 定年延長対策	① 70 歳までの就業機会確保（努力義務）への対応	▶対応方針の決定（就業規則の改定）
13. 経営リスク管理	①経営リスクアセスメントと対応	▶労使紛争、サイバー攻撃、福祉サービス訴訟への対処方針決定と対応策の実施

5. 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	目指すべき成果
14. 地域と共に歩む法人へ	①地域で活躍する施設人材の送り出し（公益性・主体性）	▶施設スタッフが地域公益活動に主体的に取り組むように法人が支援
	② Tunagari、神戸聖隷総合相談センターの機能発揮（公益性）	▶両事業の設置計画に掲げた機能を全面的に実施
	③ほっとかへんネット・自立支援協議会の法人連携活動リード	▶地区ほっとかへんネット・自立支援協議会への協力（職員派遣）（役員・部会リーダー）
	④各地域ほっとかへんネットへの協力（DWAT 等協力を含む）	▶地域 BCP 策定・協力内容の確定と実施（福祉避難所・災害ボランティア・DWAT 協力等）

創業 48 周年記念式典　講話

2023 年 6 月 23 日、舞子ビラ神戸にて 4 年振りに集合形式で行いました。
ご利用者・ご家族の皆様にもご参加頂くことができました。

須磨寺貫主　小池弘三（こいけこうさん）様に講話をお願いしました。
福岡県粕屋郡の南蔵院（世界最大級の涅槃像で有名）のご次男としてお生まれになり、福岡大学卒業後高野山での修行を経て須磨寺住職としておつとめされています。大変気さくなお人柄が伺える楽しいお話を伺うことが出来ました。全部ご紹介出来ると良いのですが紙面の都合もあり、本誌では「要約」として掲載させて頂きます。

私は神戸に来て 42 年、それまで福岡に 22 年おりました。大学は貿易学科でしたが、父から「坊さんにならんか」と言われて「なる」と言いました。修行道場で修業を重ね、真言宗を学びました。その後、神戸の寺（須磨寺）で跡継ぎを探していると聞きその寺に入ることとなりました。ところがインドのムンバイで先代が急死し、40 歳で須磨寺の貫主となりました。突然高位である赤い袈裟をかけ赤い座布団に座ることになり責任の重さから肩に力が入り過ぎました。初心に帰ろうと思い、始めたのが「掃除」です。次に「挨拶」。最初はうつむきながら「声を出しているだけ」その内、「相手の顔を見て」「言葉を交わし」「会話が生まれる」。気づけば寺の職員にも挨拶をしていなかったと気づきました。「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」。一番大切な挨拶がわかりますか？それは「おはよう」なんです。「おはよう」だけがその後に『ございます』がつくのです。芸能界の挨拶がいつでも「おはよう」なのはそういう理由もあるのでしょう。

幼少期を過ごした自宅の寺は明治生まれのおばあちゃんが大勢修行に来ていました。昔のトイレは暗く寒い、廊下の端にありますので夜一人で行けず、テレビを見ているおばあちゃんにお願いすると二つ返事で「あーよかよ」と言ってトイレの外で蚊に刺されながら待っていてくれました。ありがたかったですね。

仏教には「如来」（如来は仏の世界におられる悟りを開いた方）と「菩薩」（悟りを開いていて仏の世界に行けるのにこの世で我々を支えてくれる方）があり、私たちは「彼岸」（生きている世界）にいるのです。

菩薩の大きな仕事は「布施（ふせ）」「愛語（あいご）」「利行（りぎょう）」「同時（どうじ）」この四つを「四摂事（ししょうじ）」といいます。布施は「見返りを求めない施し」です。女編の字は多くありますが「女に波」とかいて「婆」おばあちゃんですね。波はしわです。横しわがしっかりと刻まれた人は笑顔でいたという事です。笑顔で縦しわは出来ません。あるおばあちゃんがいよいよ最期という時に他の人の手を振り払って不仲だったお嫁さんの手を取り「ありがとう、つらい目にあわせてすまんかったな」と言ってぽたりと亡くなったそうです。人生最期の言葉が「ありがとう」と出るかどうか。普段からそういう言葉をどんどん出していかなければ最期にでてこない。こちらから挨拶をしていけば相手の反応がある。そして初めて関係ができる。この頃返事をする人が少ないです。「返事をする」ことはとても大事、これもひとつの挨拶。かつてのおばあちゃんが菩薩に思えたのは「私が喜び、安心してトイレにいけるように」「よかよ」とすぐに返事をしてくれたわけです。利行＝相手の為になる、ということ。同時＝相手のことを思い相手の立場で考え行動すること。

人間の一番美しい姿は胸の前に手をあわせる姿といわれています。それは他の為に祈る姿だから。これが自分の為になると段々と手が上がってくるのです。

人に席を譲る時でも譲った方が座ってくれた人に「ありがとう」という。自分の行為に対して受け取ってくれてありがとう、という気持ち。行為ができた自分をほめてやりましょう。

掃除がきちんと出来ていないところは空き巣にも狙われやすいそうです。掃除できているところは、きちんと管理できているから。自分はおばあちゃん達の「四摂事」に守られて育ってきたのだと思います。毎朝目覚めたら自分に向かって「おはよう」と笑顔で語りかけるのです。今日も目覚めたことに感謝し一日を過ごすことにしています。そのことで周りの方も良い気分になれたら幸せだと感じております。

新施設長紹介

法人本部事務長　**小 紫 義 也**

４月から法人本部事務長を拝命しました、小紫（こむらさき）と申します。大きな役割と責任を感じ、非常に身の引き締まる思いで日々を過ごしています。

2002 年４月に入職し特別養護老人ホーム平生園で事務職として３年勤務後、2005 年４月から法人本部に配属され 18 年経過しました。今年３月に常務理事を退任された吉田和夫さんから、本部は施設を下支えする部署であることを常々ご指導いただいてきました。

社会福祉法人を取り巻く環境は入職した 21 年前とは大きく様変わりしていますが、ご利用者に安心してサービスをご利用いただけますよう、これまでの諸先輩方の歩みを覚えつつこれからも施設を下支えする本部として日々取り組んで参ります。

北但広域療育センター施設長　**稲 津 慎 也**

豊岡市にあります北但広域療育センターの稲津と申します。

この４月から施設長を務めさせていただくこととなりました。

これまでは、平生園（特別養護老人ホーム）で介護を５年、和生園（就労Ｂ・就労移行・GH）で就労支援等を 12 年、当療育センターはご縁をいただき今年で８年目となります。

療育センターでは多くの事業を行っていますが、開設から 15 年を迎える中、地域の状況や利用ニーズにも様々な変化を感じています。

これからもご利用者の想いにしっかりと寄り添うことを大切に、地域に求められるセンターとしての役割を果たすことができるよう、努めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

ワークセンターわかまつ　**岩 本 康 則**

本年４月にワークセンターわかまつに着任しました岩本康則と申します。学校を卒業後、一般企業を経て、神戸聖隷福祉事業団に入団し 23 年が過ぎました。この間、障害のある方の就労支援、生活支援、相談支援などに携わってきました。これまでを振り返ると、福祉について右も左もわからない素人同然の私がここまでやってこられたのは、ひとえにご利用者とご家族並びに関係機関の方々のご指導とご協力があったからだと切に感じております。

これからは恩返しとして、いただいた新たな役割を通して、ご利用者とご家族の生活が少しでも彩あるものになるように、その責務を果たして参ります。また、創業 50 年を目前とする当法人が次の 50 年へとつながるよう、後進の育成にも努めて参ります。

2023. 9 洗足 SENZOKU vol.32 2023年9月1日 発行 （発行人）水野 雄二
（発行）社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 〒654-0142 神戸市須磨区友が丘1-1 TEL.078-792-7555（法人本部） 郵便振替口座 00920-9-163818
（編集）社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 広報委員会

神戸聖隷にご寄付をいただきました。

（敬称略・順不同）

皆様のご支援に感謝申し上げます。

2月
安達千里
谷地リサ

3月
植田君恵
藤井裕子
山下千裕

4月
西内勝太郎（北須磨団地自治会会長）
米田成己
石原紘正
林友紀
石上正大
吉田和夫
西山充
森山礼奈
橋本美鈴
高野静代
難波君枝
安井正喜
澤英子
伊藤剛志
金原義正
本田恵
野々宮壽一
藤田希望
豊田操
杉本稔
川見喜則

5月
永島明美
高橋勝美
大谷節子
野口和泉
藤井正雄
岡田安津子
田島康啓
水野雄二

6月
インクルージョンひょうご家族会

7月
津幡佳伸

ご寄付のお願い

ご利用者（障害（児）者・高齢者）の一層のサービス向上に資するため、法人は皆様のご寄付をお願いしております。同封の振替用紙をご利用ください。

牧師 Message

「神の業のなかで生かされた俊ちゃんのこと」①

日本キリスト教団 隠退牧師　**丹羽　和子**

1941年に台湾の台北で生まれ４歳になった私は、終戦直後、引揚船の船底に家族や親類たちと雑魚寝しながら日本へ、そして神戸の親類を頼って須磨にやってきました。暗い船底に寝ている間、側にあった梯子のような階段から時々人が落ちてくるのとか、一升瓶に米粒が入っているのを長い棒でトントン突いていわゆる精米をする手伝いをしていたこと等が妙に記憶に残っています。

ようやく着いた須磨の地の近所に住んでいた一歳上の従妹の俊ちゃんと出会いました。ダウン症で生まれた俊ちゃんでしたが、「お前の従妹の俊子は赤ちゃんの時に抱っこしていたお手伝いさんが落としたからしい」と父は説明してくれたことを覚えています。終戦直後、障害があるということに何とか理由付けをしたい、そんな時代であったのかもしれません。でもイエス様ははっきり言われました。＜本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。＞　俊ちゃんと、まだ日本になれない私は、すぐ近くにある少人数制の私立の小学校に通わせてもらい、机を並べて６年間を過ごしました。俊ちゃんは裕福な家に生まれたおかげで、毎日、都也子姉ちゃんというお手伝いさんと二人で登校し世話をしてもらっていました。漢字を書くことが大好きで、いつも漢字をノート一杯に書いていました。そんな風にして私と俊ちゃんは幼少期をつかず離れずに過ごし成長していきました。時代の流れの中でQOL（生きる質）という言葉など、障害があって生きる者を見つめるまなざしが少しずつ変化してきました。私自身、俊ちゃんの側にいたおかげで、どこかで障害があって生きるという事を身近に感じていたのかもしれません。俊ちゃんは学校を卒業後は、家族やお手伝いさんに大切に守られて自由気ままに過ごしていました。でも、そんな生活だけが俊ちゃんの人生の幸せなのだろうか、両親や家族の亡き後はどうなるのだろうか？そんな心配が私の心を占めていました。その時に、ある聖書の言葉が響きました。＜どんなことでも思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなた方の心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。（フィリピの信徒への手紙４章６－７節）＞　そして、まさに人知を超える出来事が起こりました。

ある「障害の子をもつ親の会」に俊ちゃんと出席している時、「須磨の地に『神戸聖隷福祉事業団』が障害者のための施設を開所する、そのための面接が今日ある。」という話を耳にしたのです。求める者に神様は備えてくださいました。早速、後先のことも考えず導かれるようにその面接の場に行き、事情を話し、是非今からできる新しい施設に俊ちゃんを受け入れていただきたいとお願いしたのです。なんと、面接者の中には、親しくさせていただいていた先輩の牧師もおられました。神様は全てを備えてくださったのです。その後、両親に俊ちゃんの入所を勧めました。そして、それも備えがあったからでしょう！神戸聖生園に入所が許され、その直後にほっとしたかのように、両親は続いて神様の身許に召されたのでした。